

1992年8月17日(月)

磯辺がガレジス川(月光に照らされた)を見て妻を思う場面を考える。
ここはこの小説のなかでも最も美しい場面でなければならない。

——「深い河」創作日記より

生誕101年を迎えた遠藤周作。純文学作品から歴史小説、戯曲まで多彩な作品を生み出した。

読者と共に悩み、寄り添うことで遠藤文学は人々を慰め、勇気づける。

その作品は世界各国の幅広い読者に支持され、ノーベル賞候補に挙げられた。

彼の一生の集大成として、人生最後の祈りを込めて書かれた『深い河』

そのなかから、妻を亡くしてはじめてその存在の大きさに気づき、

喪失感に苦悶する磯辺を軸にして、新たな視点で語り読む。

『深い河』のテーマである——命の向こうにある永遠なるもの——は

今を生きる私たちへの遺言ともいえるべき言葉である。

『深い河』発刊の日、遠藤周作は危篤であった。

竹元まき子

2歳より日本舞踊を始め、18歳で師範免許取得。国立劇場、新橋演舞場等に多数出演。日本舞踊全国コンクール第2位。長唄、義太夫、声楽と異なるジャンルで声を磨く。琴生田流奥伝取得、鼓、三味線等芸事を幅広く修め劇団前進座に入座。退座後、ことばの会えくせるしあを立ち上げ、朗読家として活躍。「現し身のことばたち」シリーズをライフワークとして、従来の朗読、語りの枠を超えた舞台空間を創り上げている。中日文化センター、他朗読教室主宰。

主な公演に「深い河」初演、「曾根崎心中」「出雲の阿国」「藤十郎の恋」。山本周五郎作品では「雨あがる」「その木戸を通して」「二十三年」を語る。その他、森鷗外「最後の一句」「高瀬舟」、太宰治「葉桜と魔笛」、有島武郎「小さき者へ」を朗読。近松門左衛門、高村光太郎、宮沢賢治、北原白秋、八木重吉の世界、覚和歌子、角田光代、あさのあつこ等、古典から現代文学まで多様なジャンルを表現している。

2024年 6月9日(日) 13:30 開演
13:00 開場

全席自由 4,000円 (当日4,500円)

*未就学児のご入場はご遠慮いただいております

チケットのお求め方法

◆ことばの会えくせるしあ ☎090-9911-0428

*下記にご記入の上、FAX0584(56)0211でもお申込み頂けます

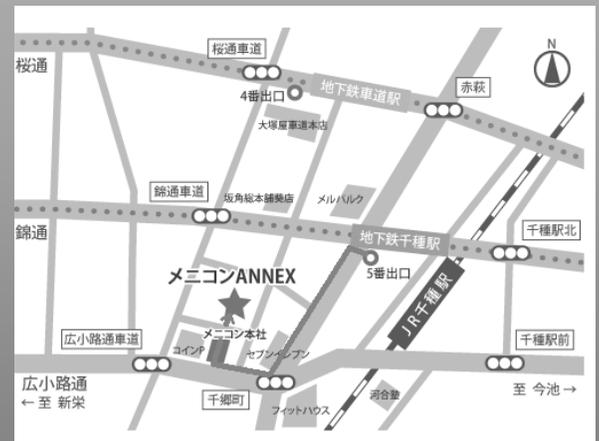
◆名古屋市文化振興事業団チケットガイド

(ナディアパーク8階) ☎052-249-9387

*チケット半券に氏名、電話番号をご記入の上ご来場ください

HITOMI ホール

名古屋市中区葵三丁目21番19号 052-935-0918



◆メニコン ANNEX はメニコン本社の北側の建物です
【JR】千種駅地下改札口方面5番出口より徒歩4分
【地下鉄】東山線:千種駅5番出口より徒歩約4分
桜通線:車道駅4番出口すぐ左折。徒歩約7分

【FAXでのお申し込み】

ご希望チケット

枚

お名前 _____

お電話番号 _____

ご住所 _____